

5. 当科における末梢挿入型中心静脈カテーテル (PICC)の使用状況

都築則正 1 東口高志 1 伊藤彰博 1 中川理子 2 前川佳奈 1 二村昭彦 3 上葛義浩 3 前川ゆか 3

藤田保健衛生大学医学部 外科・緩和医療学講座 1

藤田保健衛生大学医学部 地域生活支援学講座 2

藤田保健衛生大学 七栗記念病院 医療技術部薬剤課 3

【はじめに】

本年 3 月、「中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析」が公開され、改めて中心静脈穿刺は致死的な合併症を生じうるリスクの高い医療行為であることが報告された。この提言では、中心静脈カテーテルの第一選択として PICC が推奨されている。今回、当科における PICC の使用状況、有用性につき検討したので報告する。

【方法】

2016 年 4 月～2017 年 3 月に緩和医療目的で七栗記念病院に入院した患者 440 名の中で、中心静脈カテーテル (CVC、PICC、ポート) を挿入した 213 例を対象に、挿入症例数、閉塞、事故抜去率、挿入時合併症、血流感染について検討した。

【結果】

1)挿入症例数:PICC は年々増加傾向、2)カテーテル閉塞率:CVC 3%(2/65)、PICC 0%(0/110)、ポート 5%(2/38)と PICC の閉塞はなく、3)カテーテル 事故抜去率:CVC2%、PICC2%、とほぼ同等、4)挿入時合併症:CVC、PICC とともに重篤な合併症は認めず、5)血流感染発生率 (/1000 カテーテル挿入日):CVC 0.64、PICC 0.34、ポート 0.29 と PICC はポートと同等程度低率であった。

【まとめ】

PICC は、①穿刺時の重篤な合併症が少なく、②カテーテル閉塞、血流感染発生も低率である。また、③急性期から緩和、新生児から高齢者までと適応が広い。今後、中心静脈カテーテルの第一選択として広範に使用されると考えられる。